

～地域とともにある学校づくりをめざして～

# 寿都町コミュニティ・スクールだより

第6号 平成27年9月2日 発行

発行者：寿都町学校運営協議会連絡会

## 次へつながる一步 研修会で大きく前進

7月28日(火)、町文化センターにて「寿都町コミュニティ・スクール研修会」を開催しました。

俱知安町在住の矢吹俊男さん(コミュニティ・スクール推進委員)を講師に迎え、“コミュニティ・スクールを考えましょう『地域を愛し「ふるさとを想う」子どもを育てる』”のテーマのもと講演をしていただきました。その後、参加者を5つのグループに分けて「グループ討議」をしました。

その中では、寿都町の現状とそこから見えた課題を出し合い、解決方法や方向性について意見交流をしました。ほんの一部ですが、その様子をお伝えします。

### Aグループ



- PTAや地域住民にもっと知ってもらう努力が必要
- この組織が教職員にもっと開かれたものに
- 地域の高齢化の問題をどうコミュニティ・スクールを使いながら解決していくか？

学校・地域のために

「距離感」や「遠慮」

があるのではないだろうか？

活動して2年目の今こそ

「はじめの一步が重要！」

### Bグループ



- 地域の人にこの組織や学校の取組が伝わっていない
  - 「コミュニティ・スクール」…「コーディネーター」…って、なんぞや？
  - 寿都の子供たちをどのように育てていくのか「学校」「地域」「保護者」間で共有不足？
- 「広報は読み手意識をもって  
分かりやすさの工夫」  
「寿都らしい わかりやすい  
ネーミングにしたらどうか？」

### Cグループ

- 子供たちの成長に何が必要かをもちと話すべきでは？
- 教職員はコミュニティ・スクール当事者意識を高めること
- 地域と学校の交流（祭りなどの行事を共に行う）
- 学校運営協議会委員の半分は改選し、その後応援に回ってもらう

「学校⇄地域の双方向の連携や交流が必要」



## ログループ

- 昨年より生徒が地域に出て学習する場が増えてきた
- 学校に少し入っていきやすくなった
- 学校運営協議会の具体的な活動が不明
- 会議では全員が活発に発言できる雰囲気？
- コーディネーターが必要

「活動がもっと明確に  
なっていくための工夫」  
「組織のあり方の模索」



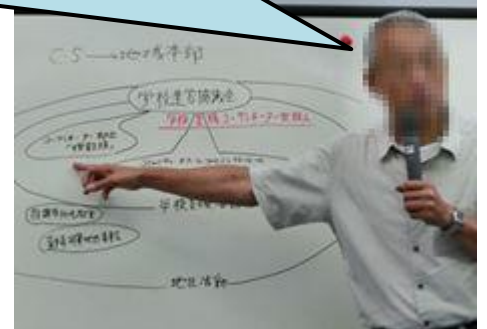
## Eグループ

- 「学校」「家庭」「地域」をつなぐ役割の人、コーディネーターがいらない場合どうなるのか？
  - 本来コミュニティを作る所は学校なの？
  - 身近でない大人とのふれあいの場があったらよい
  - 学校運営協議会に教員の参加が欲しい
  - 「学校」「家庭」「地域」が顔を合わせて問題を提示、話し合う機会の実現が必要だと思う
- 「連携は本当に十分  
行われているのだろうか」



矢吹俊男先生からの講評 「今回の討議内容を共有し、町ぐるみで取り組んでいってほしい」

- 「コミュニティ・スクール」のネーミングを寿都弁の言葉に言い換えられないかを考えてみるというのはいい考えだと思う。
- 予算がなくなったら終わりなら、ただの「イベント」である。コミュニティ・スクールを「事業」として続けるためには国や道は継続して支援すべきではないだろうか。
- 寿都の子供たちにとっての「地域の誇り」を育てることは、**教育（先生方）と地域がつながれば**できる。



グループ討議後の講評のようす

参加者アンケートより

(参加人数 39名 各校学校運営協議会委員、教職員、教育委員、教育委員会職員、PTA)

- コミュニティ・スクールの必要性、地域にとってその活性化が大切なことであることを改めて勉強させていただきました。
- いかに地域全体を巻き込むことができるかが大事。コーディネーターの役割は本当に重要だと思う。
- 帰って来たい「ふるさと」を創る。学校を中心とした地域と学校と家庭で子供たちを育てる、当たり前のことを具体的に実践していくことの大切さをあらためて感じました。

みなさんはこのたよりを読んでどんなことを感じましたか？

ぜひ身近な方やコミュニティ・スクールに係わっている方などと意見交流をしてください。

各校コミュニティ・スクール担当

寿都小学校 Tel62-2030

潮路小学校 Tel64-5003

寿都中学校 Tel62-2158